

女性スポーツ選手における ACL 再建術後の 再損傷・反対側損傷の症例検討

○竹下 真弥 (たけした しんや) (PT)¹⁾, 北口 拓也 (PT)¹⁾, 佐藤 のぞみ (PT)¹⁾,
金本 隆司 (MD)¹⁾, 平林 伸治 (MD)¹⁾, 田中 美成 (MD)²⁾, 米谷 泰一 (MD)²⁾,
堀部 秀二 (MD)²⁾

¹⁾ 大阪労災病院 リハビリテーション科

²⁾ 大阪労災病院 スポーツ整形外科

【はじめに】

膝前十字靭帯 (ACL) 損傷は, 術後にスポーツ復帰を果たしても再損傷や反対側損傷を起こす場合も少なくなく, 特に女性は男性に比べその頻度は高い. 今回, 女性スポーツ選手 ACL 再建術後の再損傷・反対側損傷の頻度・因子などについて検討したので報告する.

【対象と方法】

2005 年 1 月から 2009 年 12 月までに当院で初回自家半腱様筋腱を使用した鏡視下 ACL 再建術後, 元のスポーツへ復帰した女性スポーツ選手 152 例 (平均年齢 20.1 ± 8.6 歳) を対象とした. 検討項目はスポーツ種目, 受傷機転, ACL 再建術後から再損傷・反対側損傷までの期間, 術後 6 ヶ月時の等速性膝筋力を調査した. なお, 初回手術時に両側損傷していた症例は除外した.

【結果と考察】

再損傷または反対側の損傷を生じたものは 30 例 (19.7%) と高頻度であった. 再損傷群は 17 例 (11.2%), 反対側損傷群は 13 例 (8.6%) で, 初回手術時の年齢に差はなかった.

スポーツ種目はバスケットボールが最も多く (再損傷 10 例, 反対側損傷 10 例), 殆どの症例 (15 例) が非接触時に損傷していた. また, 2 回目受傷までの平均期間は再損傷 11.8 ヶ月, 反対側損傷 22.5 ヶ月であった. 初回術後 6 ヶ月時の等速性膝筋力患健比は両群とも 90% 以上であった. バスケットボールはジャンプ・切り返しの多いスポーツであるだけでなく, 密集での接触プレーの要素も含むため, 手術方法, リハビリテーション内容や復帰時期の再検討を含めた予防策を考慮する必要がある.